

## 高齢者への仲間入り

私も、とうとう高齢者への仲間入りです。私は、昭和21年7月2日生まれですので、つい先日満65歳の誕生日を迎えました。

改めて、良くここまで生き延びてきたなという感じがしますが、人生80年時代となった今では、まだまだ老け込むわけにもいきません。とはいえ、ついには私のところにも「介護手帳」なるものが届きまして、60歳の還暦の時とは違った気分を味わっています。僻んでいうわけではありませんが、「高齢者」という響きのせいでしょうか、老人という括りに足を踏み入れたという感慨から逃れることは出来ません。

高齢者は何故65歳からなのかについては、根拠が良く分かりませんが、制度的には「老人福祉法」などによって老人福祉の対象者が65歳以上となっていますし、年金も65歳から満額支給されることとなりますので、今更“じたばた”しても仕方ありません。

ところで、制度としての高齢者はともかく、感覚的に何歳をもって老人（高齢者）とするかについては、色々な考え方があると思います。私が社会人になりたての頃は、40代、50代の方でも相当老けていましたから、60歳の方は老人と呼ぶのに十分でした。当時の60歳は、今の70代後半といっても差し支えないでしょう。

話は変わりますが、サザエさんのところの磯野波平・フネご夫妻の年齢は如何ほどとお思いでしょうか？

十分お年寄りの雰囲気醸し出していますが、実は、波平さんは54歳、フネさんは52歳と聞くと驚かれる方も多いと思います。「サザエさん」という番組が開始されたのは1969年、今から42年前で、当時としては違和感のない設定だったようです。しかし、我々の印象では60代半ば過ぎにしか見えません。

統計上、65歳以上は「従属人口」と位置づけられています。つまり、15歳から64歳までが「生産年齢人口」とされていますから、14歳以下と65歳以上の世代は「生産年齢人口」に従属している、いい換えると「生産年齢人口」世代に食べさせていただいているということなのでしょう。昔は、60歳を過ぎれば、殆どの方は年金で生活するのが普通でしたから、「従属人口」という統計上の扱いに違和感はなかったと思います。しかし、今は、昔と比べて若々しく、元気なお年寄りが非常に多いということもありますし、現実に関自分が「従属人口」の仲間入りをしたということになると、何となく釈然としないところもあります。高齢化が進んでいる今、「生産年齢人口」の考え方自体も検討する必要があるように感じます。

いずれにせよ、若い人たちからは老害といわれぬ程度に、頑張れる内は頑張っ少しでも社会のお役に立つことが出来れば本望だと、素直に思っている今日この頃です。（塾頭 吉田 洋一）